

広帯域 CDMA テストベッド開発と IMT-2000 技術実証

1986 年（昭和 61）ごろから、ITU-R において、第 3 世代の移動通信システム IMT-2000（International Mobile Telecommunications-2000）の検討が開始され、IMT-2000 の無線伝送技術である広帯域 CDMA に関する研究開発が進められた。KDD は 98 年 12 月、事業化に向けた実証実験を行ったが、これは実際の使用環境におけるシステムレベルの実験としては世界的にも早い時期に行ったものである。特に、都市環境下での高速データ伝送およびソフトハンドオーバーの実証は世界に先駆けて実現した。また、独自に開発した干渉キャンセラーによって回線品質、回線収容数の大幅な向上が実現された。

出典：KDD 社史